

学力向上に係る効果的事例「ノート指導」

蓮田市立蓮田南小学校

主な取り組み

(1) 理科の取り組み→思考力・判断力・表現力を高めるノート指導

視点を決めて自分の考えを書く力を高める。

- ・「予想→わかったこと→結果」の過程の中に自分の疑問や考察を学年に応じてノートに書く。ノートの書き方の例を示し、表現力を高める。
- ・既習経験と新しい知識を関連づけて書かせるノート指導。学校として統一した書式を示す。(ノートの書き方例として示した資料を添付します。)

【ノートの書き方例】

課題 単元のねらいと児童から出てきた疑問とを考え合わせて設定する。

水がふつとうしたときに出てくるあわは、何だろうか？

予想 課題に対して、既習や体験などから考える。理由も書くようにする。

空気だと思う。
理由：ぶくぶくしている様子が、あわと同じように見えるから。

実験方法 実験のやり方、手順、準備物、留意点などを書く。図や文で表す。

① ろうとの先にビニルぶくろをかぶせゴムで止める。

② ビーカーに水を入れて、(①)をかぶせる。

③ ビーカーを熱する。

(観察の視点：ビーカーに入っている水の様子を見よう。)

④ ビニルぶくろがふくらんだら、熱するのをやめる。

(観察の視点：ふくらみ方をよく見て、なぜふくらんだのか考えながら見てみよう。)

⑤ しぼんだら、もう一度熱してみる。

図
観察の視点

結果 事実のみを図や文、表、グラフなど、発達段階に応じた方法で表現する。
結果とは別に気づいたことも記録する。
実験方法と対応させて書く。
① のとき・・・・・・・・

- ・④のとき水がふつとうしたら、あわがたくさん出て、ビニルぶくろがふくらんだ。
- ・④のとき、火を止めてしばらくたつとビニルぶくろはしぼんだ。
- ・⑤のとき、ふくろの中に水がたまった。

考察 課題に対し、結果から分かること、考えられることを記述する。(高学年は、理由も加えよう。)
※単なる結果のくり返しにならないようにする。

- ・水がふつとうした時に出てくるあわは、空気にそっくりだが空気ではない。わたしは、〇〇だと思ったけど・・・(自分の考えを書く)

まとめ 押さえる用語を使い、キーワードを提示したり、定型文に当てはめたりするなどしてまとめる。

ふつとうしている水から出てくるあわは、水じょう気である。(キーワードを使って)